

学は石陽館の後身であった。僕は父の評伝を書くため調査に行ったことがある。祖父は貧しい茶の行商人だったのに子供たちにはいずれも最高の教育を受けさせている。男の子ばかりでなく娘たちにもである。この異常ともいえる教育熱は、三春町を包んでいた自由民権思想の影響だった。父は苦学して、石川中学の4年に編入したのだが、当時こうした苦学生に高等学校や大学への道を与えるため特別の配慮があったことを、父とほぼ同年輩である法人石川高校理事長森深造先生が語ってくれた。それは石陽館の創立の精神の一端であつたろう。また、父の兄妹たちに、じゃがいもをふかしてたべながら行なうイモ会で、兄弟姉妹が交代で立上っては演説をしたという話を聞いて驚いたものであった。

職場における学歴差別を排し、労働の貴賤の観

念を乗り越えて、嫌な仕事はローテーションを組んで皆で交替してやるべきだと主張する京浜工業地帯の青年労働者。各地の農民大学に集る農村の青年男女たち。地域の婦人労働の歴史と現状についてのすぐれた調査を行なった銚子の子女子高校生たち。観光開発が農民に及ぼす影響を精細に調査した、長野県の定時制高校生たち。郷土の自然と産業、人間の健康を守るため、石油コンビナート進出計画をほとんど教師の手を借りずに調査、批判した静岡県の高校生たち。

本書で紹介されるこうしたすぐれた青年たちの実践が核になり、自由民権期の青年の情熱を持った国民教育要求運動が起こったとき、はじめて多様化を受け入れる現実主義を乗り越え、頹廢の極限から日本を救い出す教育の理想がとり戻し得るのだ、と著者は訴えているのではなからうか。



この本を一冊

看護教育の技法

＝沼野 一男編＝

医学書院 刊
A 5 判
¥1600

伊藤 暁子

〔東京都立第一高看護学院教務主任〕

「つまらない講義は、一般的に看護を担当する先生に多い」と看護学生は率直に訴える。授業をしながら、看護教師はなにか満たされないものを感じる。これらは看護学校でしばしばみられる事実である。なぜであろうか――？

本書“看護教育の技法”は、この素朴な疑問に明確な解答を与えてくれた。“自分が教えたいと思ったことを、すべて学生に講義したといえる教師はたくさんいるであろうが、教えるべきことをすべて学生に、確実に学習させることができたといえる教師はほとんどいない。”と、著書は「教師は専門職か」と題する本書の冒頭で述べている。いわば、ごく当り前な教師の姿を示したにすぎないこの

一文は、私を含めて、今日の看護教師をクローズアップしたものに感じられ、胸をぐさりと刺された思いであった。

“そもそも教えることはどんなことか、教えても学ばせなければ教えたことにならない。”著者はごく基本的なことから説き起こし教育方法を考えるには、目標の明確化が前提であって、教育内容は目標を具体化したものであると、多くの例をおり込みながら説明を加えている。特に3年間にわたっての熱心な研究会メンバーとの討議を通じて得た豊富な引例は、いずれも身近にころがっており、それが一段と本書に親しみを持たせている。

授業形態による教授法の長短、

模型、映画はいうに及ばず、オーバーヘッドプロジェクター、各種ティーチングマシンなどの教育機器の利用法、また、プログラム学習の看護教育への導入についてなど、今後の教育への示唆を与えられ、大変に勇気づけられる。

第2部には、教育技法研究会のメンバーである教師の方がたが、実際に研究された論文が紹介されているが、同じ教育に携わる者として、非常な刺激であり、心強くも感じられた。

わかりやすく、親切に説明されている本書は、看護教師にとって必読の書であり、どれかを実行してみようとする素直なファイトを湧きたたせてくれる楽しい本である。